

高松支部 活動報告

1 研究主題

生き抜く力を育むためのメディア教育のあり方

2 はじめに

上半期は学校現場にタブレット端末を導入した場合の活用方法について昨年に引き続き模索するため研修会を実施した。8月には中高生に情報モラルや情報セキュリティを指導するスキル向上のための知識講習会を行った。また、2019年1月より本格的な運用を開始したTe-Comp@ssについての改善点や質問などを各校で取りまとめてもらい、今後の運営に生かしてもらえよう活動報告に盛り込むことにしている。今年度は、いずれも現場の状況を鑑みたより実利的な研修を行うことができた。

3 研究計画

平成27年度のグループを継続し、第2～4回主任研修会及び高松支部夏季研修会の企画・運営を担当した。

(1) 第1回(4月21日高松第一中)

- ①昨年度報告・今年度計画
- ②事業報告・会計報告
- ③役員選出・事業計画

研究グループ一覧

北：桜町、紫雲、玉藻、高松第一、鶴尾、木太
南：龍雲、太田、山田、香川一、三木、塩江
東：屋島、協和、古高松、牟礼、庵治、高松北
西：勝賀、一宮、香東、下笠居、国分寺、香南、
附属高松

平成28年度研究組織

部会長	岩井 秀樹	校長	屋島中学校
副部会長	佐々木 啓祐	校長	香東中学校
研究主任	柴田 恒		太田中学校
研究副主任	室園 恭規		庵治中学校
庶務	森石 泰光		屋島中学校
会計	藤原 悟		玉藻中学校
放送コン	平尾 高治		太田中学校

(2) 第2回(6月22日高松第一中)

ICT教育の現状と課題についての講習会
株式会社ドコモ CS 四国

(3) 夏季研修会(7月27日高松第一中)

携帯・スマホ関連情報セキュリティ講習
e とびあかがわ

(4) 第3回(9月29日高松第一中)

- ・学習コンテンツ利用についての紹介
- ・ICT機器の活用、Te-Comp@ssについて
現時点での問題点の集約と意見交換

(5) 第4回(H29年2月24日高松第一中)

- ・H28年度のまとめと反省(活動報告書)
- ・H29年度研究計画・研究組織について

4 研究内容

(1) ICT教育の現状と今後の展望

東京からNTTドコモの講師を招き、ICT教育の現状と今後の方向性についての解説を受けた。近年教育現場に導入されつつあるタブレット端末について、先進的な取り組みが行われている茨城県古河市の状況について説明を受けた。



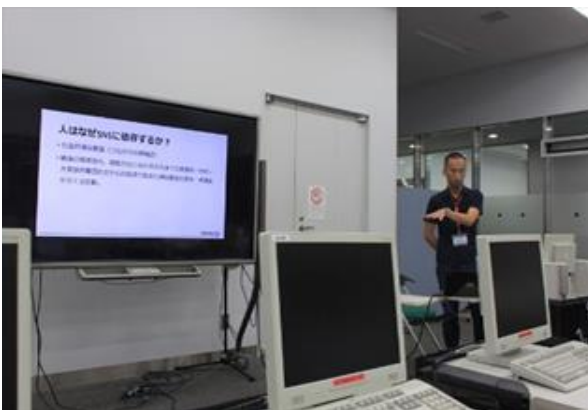
タブレット端末については現在Wi-Fi環境の整備が行われているが、LTE環境下で使えるものを使用することで学習の自由度が高まることが報告された。またタブレットの実機を10台ほど使った実習が行われた。学習に利用可能なアプリケーションについて実際に触れながら研修を行うことで、その有効性が確認でき今後の参考となった。研修後のアンケートでは以下のような意見があげられた。研修後には参加者からICTの可能性や将来性を大いに感じる事ができたという感想や、導入の費用がかさむため容易には進まないのではないかという懸念の声も聞かれた。今後も先進的な取り組みを知る機会

を持ち、学習環境の整備につなげたい。



(2) 携帯・スマホ関連情報セキュリティ講習

夏季研修会ではe とびあかがわで中高校生にどんな情報モラル・セキュリティー指導をすべきかについての研修を受けた。

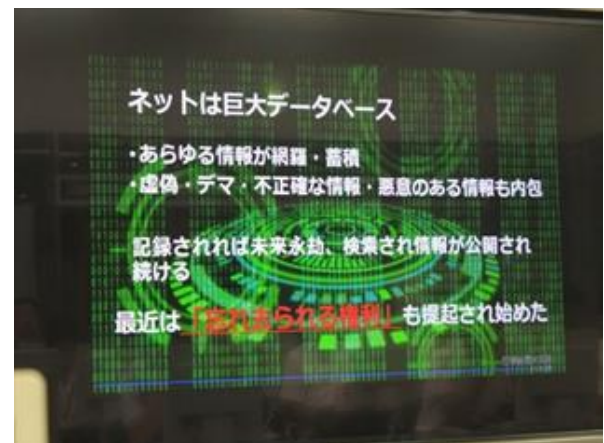


インターネット、携帯電話が生まれたときから身近にあった今の中高校生は「ネット上での発信が社会に対してどんな影響力、危険性をもっているかを十分認識しないまま」SNSを安易に活用しているという事実やネット上で知り合った見知らぬ人間と気軽に出会い、簡単に交際するようなことから発生するさまざまな危険な事例が紹介された。

そのような実態から、①ネット上に発言や動画、画像が公開されれば未来永劫に消えることなく拡散し続け、リベンジポルノなど「取り返しのつかない被害に合うことや生命を奪われることさえあること」を十分に認識させなければならないこと、また現在の我が国では、②ささいな発言であっても必要以上にバッシングをする

傾向が顕著になりつつあることを生徒に改めて認識させることが情報安全教育上必須事項であることが定義づけられた。さらにその啓発のために、学校や保護者が実生活を通して他人との直接的なコミュニケーションの大切さや意思疎通の方法を根気よく指導していく必要があることが示された。

しかし研修の最後には、ネットが持つ闇の部分だけでなく「光の部分」に目を向けさせ、インターネットや SNS には良い意味で世界を変える力や人をつないでいく高い可能性を秘められていることにも触れ、ネットを安全で有効に活用する方法にも目を向けさせることが肝要であることが説明された。



(3) 教員の ICT 活用や Te-Comp@ss 使用の実態と生じている問題点についてのまとめ

①Te-Comp@ss について

- ・動作が鈍く、入力中にもよく固まる。
- ・成績個票が1枚ずつしか印刷できない。
- ・入力に至る項目選択が多すぎて分かりにくい。
- ・僅か5分でスクリーンセーバーをかけるのは効率的に職務を遂行できず大変困る。
- ・入試事務は操作に慣れれば便利である。
- ・要録入力、複数の場所から入力しなければならず、システムに慣れるのに時間がかかる。
- ・メーカーの挙動が遅すぎる。
- ・操作に困ってもサポートに連絡し指示を受ける時間が無い。
- ・入試判定資料用のひな形がほしい。

②ICT 機器の活用について

- ・僅か10分の休み時間にPC、プロジェクタ、スクリーンの準備ができるはずがない。移動

だけでも大変なのに機器の調整は不可能。

- ・ 書画カメラ、プロジェクタも旧型で不足、セットの接続には制限がかかり画像検索すらできない。ネットの画像映像を使えてこそその ICT であり、PP だけ流せたらいいというものではない。
- ・ ハード・ソフトウェアのトラブル対処はすべて担当任せで、復旧に時間がかかる。
- ・ アクセス制限が厳し過ぎてタブレットは使用に耐えられない。県や市の役所と同じ内容で教育現場に規制をかけるのはおかしい。
- ・ 生徒主体の ICT 活用は現状では困難であり、生徒指導面での課題が増えるだけ。
- ・ コンピュータ室の PC を 40 台同時起動するだけで速度が遅くなり授業に使えなくなる。
- ・ 授業で使えというなら、せめて家庭で使うような接続環境を整えてから言うべきだ。
- ・ Wi-Fi 環境下での接続可能台数を増やしてほしい。5 台以上は不具合が起これば授業が止まるため全く使い物にならない。

③その他

- ・ 準備・片付けの時間が無いから使わない。
- ・ 手間が大変だから使用者が限られている。
- ・ 自宅でスマホやタブレットを使う職員も学校では備品を使わない。備品が古くアクセス規制が厳しいのが原因。活用を啓発しても無駄。

5 現場の要望と今後の課題

関係各機関の多大な協力により開催してきたネットモラル・情報セキュリティ啓発に関する主任研修会は、ICT・IoT の技術革新が日進月歩であるため、毎年最新情報を見聞きする場を設け、教員間で共有できるようにするのがよいだろう。教育現場の情報通信機器も最新の状態に保ちたいのだが、その実現の可能性は大変低く忸怩たる思いである。ならば、せめて TENS のアクセス制限を日々の授業に使えるセキュリティ管理にまで緩和してもらうことを切に願う。少なくとも現状のアクセス制限では、生徒を各学校現場の ICT 機器構成を使い現在の IoT 環境に適応する様に育成するのは不可能である。教師が IoT 活用の手本を見せてやれないのが致命的だ。

さらに、部会長の話から各校とも授業でのタ

ブレット端末の活用を鑑みた「各教科の現時点で実現可能な限り最新の要素を含む授業実践」に取り組む必要性が出てきている。そのための次年度の実践目標を考えなければならない。

タブレット端末の使用習熟度をあげるための研修はメディア教育部会研修会から各校の取り組みに下ろす必要があるが、中学校教員が助けを借りなくても自分で準備片付けができるようにするため、これ以上メディア担当教員の負担増に繋がらないようにするにはどうしたらよいか検討しなければならない。

機器の故障・メンテナンスについては、その事例をまとめた冊子を作るのも ICT 活用の参考になるだろう。

